

研究テーマ	鑑賞と対話を通して発想や構想の能力を育てる美術科指導の在り方 —中学校第3学年金屏風づくりを通して—
-------	---

稲敷市立東中学校 教諭

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領では「B 鑑賞（イ）日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術文化との相違点や共通点に気づき、美術を通して国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること」と示されている。また中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編では「自分としての意味や価値をつくり出すためには、自己を見つめる機会や他者との交流する場を設け、主体的・対話的な活動などを通して考えを深めながら、生徒が自分としての表現の主題を明確にしていく課程を重視していくことが大切である。」と示されている。

これらのことから、金屏風づくりを通して、さまざまな作品の鑑賞と、対話的な活動を行うことで生徒の発想や構想の能力を育てることができるであろうと考え、本主題を設定した。

II 研究の実際

1 題材名 金色の世界～日本の美意識～

2 題材の目標

- 金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図、工夫などに関心をもって、主体的に美術文化への理解を深めようとしている。
(美術への関心・意欲・態度)
- 感性や想像力を働かせて、感じ取ったこと、考えたこと、感情などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、心豊かな表現の構想を練っている。
(発想や構想の能力)
- 感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、作品づくりの見通しをもったりしながら、創造的に表現することができる。
(創造的な技能)
- 金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図と工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

（1）生徒の実態

本題材について以下のアンケートを行った。

令和元年5月20日 稲敷市立東中学校 第3学年 89人調査（複数回答可）

ア あなたは、作品の構想を練ることに関してどのようなイメージをもっていますか？

楽しい	おもしろい	興味深い	難しい	苦しい	つまらない	面倒くさい
33人	33人	11人	50人	2人	1人	0人

イ あなたは、作品の構想を練ることが得意ですか？苦手ですか？

とても得意	まあ得意	少し苦手	とても苦手
5人	31人	45人	8人

ウ 作品の構想を練るのが苦手な人は、なぜ苦手なのですか？（複数回答可）

頭に全く思いつかない。 イメージが何も浮かばない。	描きたいと思うものが 見つからない。	主題（テーマ）が 決まらない。
18人	30人	23人

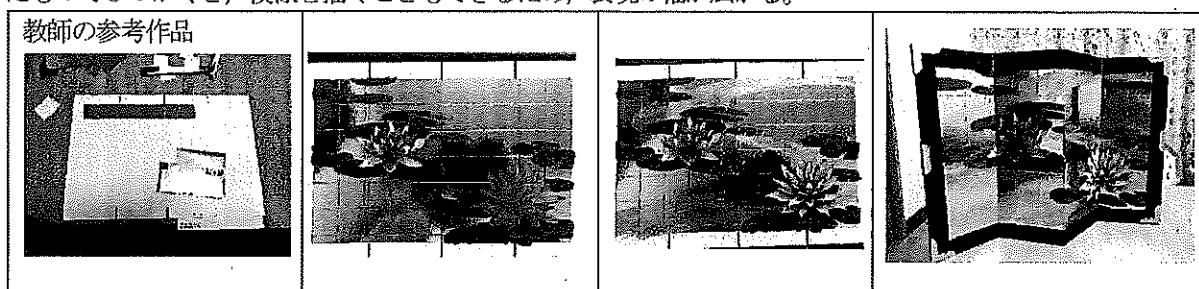
エ 作品の構想を練るのが得意な人は、なぜ得意なのですか？（複数回答可）

自分には表現したい ものがある。	友達との話し合いで、 構想が決まる。	資料を見ることで、作 品の構想が決まる。	画家の作品を見て、影 響を受けて作品の構想 が決まる。
19人	16人	21人	11人

以上のアンケートから、作品の構想を練ることに対して、楽しい、おもしろい、興味深い、というプラスの気持ちが 58%，難しい、苦しい、つまらないというマイナスの気持ちが 42%であることが分かった。また作品の構想を練ることがとても得意、まあ得意な生徒が 40%，少し苦手、とても苦手な生徒が 60%であった。

(2) 題材観

屏風は部屋の仕切りや装飾に用いる家具であり、特に金屏風は権威の象徴として外国の国王などに進物として贈られた日本ならではの美術品である。本題材で扱う金屏風のキットでは、金箔を貼るような体験をすることができる。金箔風シートは、歯ブラシでひっかくと、いぶし金（くすんだ金色）になり、先のとがったものでひっかくと、模様を描くこともできるため、表現の幅が広がる。



(3) 指導観

本題材では鑑賞と対話的な活動を充実させたい。鑑賞では、日本の美術作品や受け継がれてきた表現などから、伝統や文化の美しさを感じ取り愛情を深めていきたい。また諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承について考えるなどして、見方や感じ方を深めたい。また対話的な活動を通して、考えを深めながら生徒が自分としての表現の主題を明確にしていきたい。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図、工夫などに関心をもって、主体的に美術文化への理解を深めようとする。	・感性や想像力を働かせて、感じ取ったこと、考えたこと、感情などを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができるとがれる。	・感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して、創造的に表現することができる。	・金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図と工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	金屏風作品を鑑賞し、金箔を使った表現について理解しよう。	・金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図、工夫などに関心をもって、主体的に美術文化への理解を深めようとする。 【活動の様子、ワークシート】

第2次 ④	主題を決めて作品の構想を練ろう。 ・班での話し合い（下書きの段階）	・感性や想像力を働かせて、感じ取ったこと、考えたこと、感情などを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができる。 発 【ワークシート、作品】
第3次 ④	主題を基に彩色しよう。 ・班での話し合い（彩色の段階） ・班での話し合い（仕上げの段階）	・感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して、創造的に表現することができる。 創 【作品】
第4次 ①	自分の作品を振り返り、友達の作品のよさを味わおう。	・金屏風の形や色彩などの特徴やよさ、美しさ、作者の心情や意図と工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。 鑑 【活動の様子、ワークシート】

6 指導の実際

〈手立て〉

(1) さまざまな作品の鑑賞

ア 京都や奈良の神社や寺の鑑賞

美術の授業で修学旅行の事前学習として、金閣寺などの寺、神社の見るポイントを説明した。実際の金箔は非常に薄く、扱いにくいものであり、金閣寺は職人の技があつて成り立っていることを伝えた。実際に京都を訪れ二条城にある障壁画を鑑賞の際に、本物の金箔が貼ってあることを生徒に声かけした。

イ 有名な金屏風作品の鑑賞を通して、構図について学ぶ活動

金屏風の構図の決め方には、対比、奥行き、同じものの連續の3つがあることを説明した。

対比では、《吉野龍図屏風》を例にして挙げ、赤と白など色を対比してつくる構図であることを説明した。奥行きでは尾形光琳の《紅白梅図屏風》や俵屋送達の《風神雷神図屏風》を例にして、平面的な奥行きのつくり方について説明した。同じものの連續では、尾形光琳の《燕子花図屏風》を例にして、一つのピースを決めて、同じものを連続させて配置する構図の決め方を説明した。また日本画でよく見られる、余白の美というものがあることを説明した。



ウ 発想構想コーナーの設置

これまでの授業が一つの資料集に頼る傾向があったため、本題材では、画集や図鑑などを自由に見ることができる発想構想コーナーという場所を美術室の中に設置した。植物、動物、自然、色見本、画家、水墨画と分類して資料や本を置いた。

エ チームラボによる光のアート作品の鑑賞

なぜ現代において日本の文化を学ぶのか、を考えるためにチームラボの作品を電子黒板で見せた。教師が実際にお台場のチームラボへ行って撮影した動画や写真を見せた。チームラボの作品はプロジェクションマッピングなど最新の技術を使用して、つくり上げられた光のアートである。また作品に日本の伝統的な模様など和のモチーフが多く使われている。日本の伝統を守るということは、昔からあるものだけを守ることではなく、最先端の技術とコラボして伝統を残していく方法もあることを伝えた。また日本の文化を学ぶ理由は、他の国には見られない唯一無二のものであり、日本の強みにもなるということを伝えた。

オ クリムト展やウィーン世紀末展の鑑賞

今年はクリムトの作品が多く日本に来ており、美術館で展示が行われている。クリムトはジャポニズムの影響を大きく受けた画家である。日本の文化が海外にも影響を受けたこと、平面的で装飾的な絵のつく

り方などを学び、生徒の作品づくりにも生かすために授業を行った。電子黒板で作品を見せながら、教師が実際に作品を観てきた感想とともに説明をした。クリムトの生きた時代が、日本の開国と重なっていること、クリムトの作品が日本やアジアの影響を受けていること、1800年代から1900年代へと突入する世紀末であったことを授業では説明した。

カ アルフォンス・ミュシャの作品の鑑賞

2017年に六本木で行われた国立新美術館「ミュシャ展」の様子を電子黒板で生徒に見せた。ミュシャもクリムト同様に、ジャポニズムの影響を受けた画家である。ミュシャはチェコ出身の画家である。《スラヴ叙事詩》という作品では、古代から近代に至るスラヴ民族の苦難と栄光の歴史を描いている。ミュシャの作品を通して、どの国の人にもその国がつくり出した大切な歴史や文化がある、ということを伝えた。2020年には東京オリンピックが開催されて、多くの外国の方が来日する。また今後、生徒が多くの海外の方に出会う可能性がある。諸外国が独自に築き上げてきた歴史や文化は、尊敬を持って接するべきであるということを伝えた。

(2) 対話的な活動

ア 生徒同士の対話

自分にない視点や考えを見つけるために、班の中で話し合いを行った。話し合いは、下書きの段階、彩色の段階、仕上げの段階で行った。班での話し合いでは、現在の進捗状況を報告し、困っていることを質問したり、助言しあったりした。

イ 教師との対話

生徒と教師で、どのような作品にしていくか話をした。

金屏風に宇宙を描きたい生徒がいた。しかし背景が金色のため、黄色や白で星を描いても、よく見えないと相談を生徒から受けた。教師からは、金色の画面の上に黒い絵の具を薄く塗るよう助言した。ただの白い紙に色を塗るときとは違って、金色の画面の上に絵の具を塗ることで重厚感が生まれ、その上から星空を描いてはどうかと助言をした。さらに生徒から星空を表現するために「色を塗った金屏風の画面の上から歯ブラシをかけたら、金色の画面は出てくるのか?」という疑問が生まれた。そこで本番の作品に色を塗る前に、生徒に練習用の金屏風の画面で実験をするよう声をかけた。

ウ 自分自身との対話

自分がどのような作品をつくりたいのか、自分が強く伝えたい内容は何か、作品の主題を決めてワークシートに記入した。また作品をつくっていく課程で、作品の主題が変化していった場合は、ワークシートに変更した主題を書き足していく。

エ 作品との対話

作品を進めていく中で、作品は変化をしていく。作者の思い通りに進む場合もあれば、思うように進まない場合もある。そこにどのように対応していくか、生徒自身試行錯誤をしていった。

III 研究の成果と課題

1 成果

本題材終了後にアンケートを実施した。令和元年7月19日 稲敷市立東中学校 第3学年 89人 調査

ア あなたは、作品の構想を練ることに関してどのようなイメージをもっていますか?

楽しい	おもしろい	興味深い	難しい	くるしい	つまらない	面倒くさい
37人	47人	24人	40人	5人	0人	1人

楽しい、おもしろい、興味深いというプラスの気持ちが70%、難しい、くるしい、つまらない、面倒くさいというマイナスの気持ちが30%であった。

イ あなたは作品の構想を練ることが得意ですか？苦手ですか？
作品の構想を練ることがとても得意、まあ得意な生徒が44%、少し苦手、とても苦手な生徒が56%であった。

ウ 今回の金屏風づくりの題材を通して、作品の構想を練る上で役立ったものを教えてください。
(複数回答可)

自分が日頃考えていって、頭の中にあるもの。	友達と作品について話し合うこと。	写真や本などの資料を見ること。	電子黒板で作品を鑑賞すること。	画家の作品を鑑賞すること。	先生と作品について相談すること。
20人	47人	82人	9人	18人	37人

(1) さまざまな作品の鑑賞

ア 京都や奈良の神社や寺の鑑賞

本題材と関連付けながら、修学旅行の事前学習を美術で行ったことで、より効果的に日本の文化について学ぶことができた。修学旅行に行く前に、作品に金箔風シートを貼る体験をしたところ、「意外と金箔風シートを貼るのは難しい」と感じている生徒が多くいた。しかし本物の金箔は非常に薄くて扱いづらいものである。金閣寺や二条城の障壁画に貼ってある金箔は、素晴らしい技術の上で成立しているということが生徒も理解したようだった。

イ 有名な金屏風作品の鑑賞を通して、構図について学ぶ活動

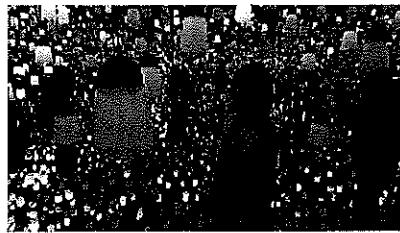
作品の下書きを描く段階で、構図の決め方を示した。対比、奥行き、同じものの連續の3つの構図のつくり方を提示した。また本題材では画面が金色であるため、あえて空白を残す方法もあることを伝えた。

赤と黒の金魚を配置して、色の対比を意識している生徒や、川を描いて奥行きを表現している生徒、折り紙で一つの模様をつくる連続させている生徒が見られた。また金色の背景をうまく残している生徒も見られた。



ウ 発想構想コーナーの設置

画集や図鑑などを自由に見ることができる、発想構想コーナーという場所を美術室の中に設置した。これによって作品の幅が随分広がった。写実的な作品だけでなく抽象的な作品も見られた。また生徒が今まで知らなかった画家の作品を、目にするきっかけとなった。今後も発想構想コーナーを充実させていきたい。



エ チームラボによる光のアート作品の鑑賞

日本の伝統的な文化を学ぶ授業では、工芸品や芸術作品を鑑賞するが多くなりがちだろうが、逆に本題材ではチームラボによる最新技術を駆使した光のアート作品を見せた。教師が実際にチームラボの展示を訪れて撮影した写真や動画を見せることで、生徒の興味関心を引き出すことができた。日本の伝統を守ることとは昔からあるものだけを守ることではなく、最先端の技術とコラボして残していく方法もあることを伝えた。

オ クリムト展やウィーン世紀末展の鑑賞

クリムトの作品には性的なものもあるため、教師側でどの作品を見せるか慎重に選択した。実際の授業では、生徒は真剣に教師の説明に耳を傾けていた。クリムトのつくり出す恍惚として耽美な世界観に興味をもっている生徒も見られた。また授業のあと、個別にクリムトの作品について質問をしてくる生

徒も見られた。クリムトが多用したうずまき模様や、流水模様などを、金屏風に描いている生徒が見られた。

カ アルフォンス・ミュシャの作品の鑑賞

『スラヴ叙事詩』の作品を通して、外国にも唯一無二の文化や伝統があるということを授業で伝えられた。ミュシャの作品を通して外国の文化や歴史を感じることができた、という記述が生徒の中から見られた。またミュシャの細やかな装飾や美しい色づかいに関心をもっている生徒も見られた。

(2) 対話的な活動

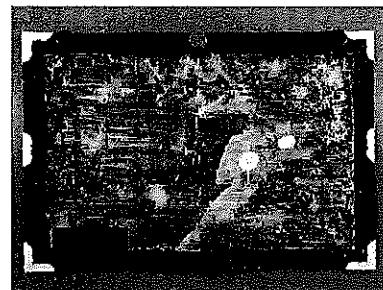
ア 生徒同士の対話

下書きの段階での班での話し合い活動では「周りが寂しいので、何か入れるとよい。」「空間をあえて空けるか、または何か描き足すか」などの話し合いが行われた。また彩色の段階では「何色を塗るか。」「グラデーションで色を塗ってみてはどうか。」などの話が交わされていた。仕上げの段階では「物足りないところはないか。」「より完成度を上げるために何ができるか。」などの話し合いが行われた。

本題材終了後のアンケートでは、作品の構想を練る上で役立ったものとして、「友達と作品について話し合うこと」を47人が回答していた。今後も班での話し合いを積極的に取り入れていきたい。

イ 教師との対話

金屏風に宇宙を描きたい生徒は、教師からの助言を受けて試行錯誤しながら作品を完成することができた。作品の進め方によっては、宇宙を描いているということが伝わらない作品になる可能性もあったが無事に美しい作品に仕上げることができた。

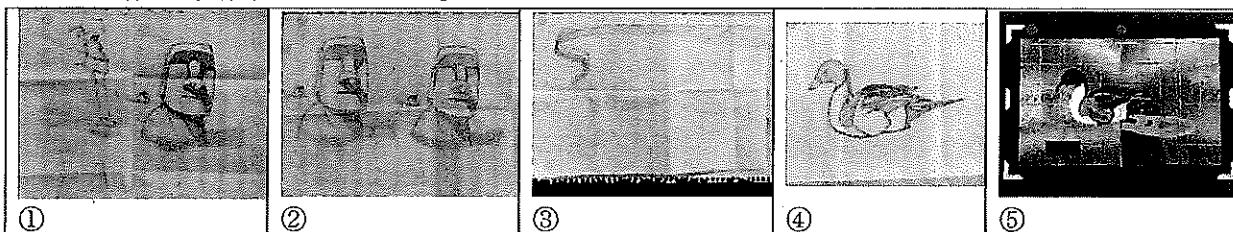


ウ 自分自身との対話

作品の構想を練り始める段階で、自分がどのような作品をつくりたいのか、プリントに主題を書いた。また作品づくりの最中にも自分が決めた主題を振り返る時間を設けた。主題を決めることで、どのような作品をつくりたいのか明確にすることができた。また生徒同士や教師との対話でも、主題を基に助言をすることができた。

エ 作品との対話

下書きの段階で4回作品の構想が変更した生徒がいた。生徒本人は「なんとなくこうした。」と答えていたが、生徒の頭や心の中でどのような作品を描いていくか、試行錯誤が見られた。最終的にカモを描いた作品を完成することができた。



2 課題

ア 全く作品のアイデアが思いつかない生徒に対して、教師が案を出す場面があつたが、生徒自身で考える時間を長く与えた方がよかったです。再度、発想・構想コーナーへ行って資料を探すよう促したり、生徒と教師との対話の中で作品づくりのヒントになるような言葉を引き出したりするようにしていきたい。

イ 作品の構想が浮かんでいても、それを実際に描いて実現する技能面に不安をもっている生徒が多く見られたため、技能面のサポートをする必要があることが分かった。今後に生かしていきたい。

〈参考文献〉

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」平成29年7月